

大学生等に向けた実施のためのガイドブックと 職業リストの作成

独立行政法人 労働政策研究・研修機構 副統括研究員 室山晴美

はじめに

職業レディネス・テスト（以下VRT）は、職業的発達における準備の程度（レディネス）を職業興味、職務遂行の自信度、日常生活の基礎的志向性から総合的に捉えることを目的として開発された検査である。職業興味、職務遂行の自信度については、アメリカの研究で、Engelmannの職業興味6領域（RIASEC）、日常生活の基礎的志向性については三つの志向性（対情報、対人、対物・DPT）を用いて尺度が構成されている。

主な対象者は中学校、高等学校（それに準ずる学校を含む）の在学生（13歳～18歳程度の者）であるが、職業の理解や知識の不足などの理由により、成人向けの検査の適用が難しい場合には、20歳前後の者であっても適用が認められている。ところが、近年、大学などの高等教育課程に在学する学生に対して、VRTを実施したいという希望が増えてきた。大学生向けの職業興味検査を実施しても、うまく結果が得られない学生が多くなったことが主な理由である。

大学生等にVRTを実施する場合には、結果の整理にあたって、便宜的に高校生で標準化された換算基準を適用するが、これまでのところ20歳前後の者にVRTを実施して、特に本人の自己イメージと一致しなかった等の問題等へのVRTの実施が今後増えてくる

可能性があれば、検査の信頼性の問題や解釈上の留意点などを、データに基づいて実証的に検討しておく必要がある。

そこで、大学、短大、専門学校生にVRTを実施し、高校生の換算基準を適用した場合の信頼性等を検討したうえで「職業レディネス・テスト」第3版¹⁾、大学、短期大学、専門学校等での実施のためのガイドブック²⁾と「大学生等のための職業リスト」を作成した。

本稿では、この二つの資料の概要を紹介し、大学生等へのVRTの活用の有効性を考えてみたい。

■「大学、短期大学、専門学校等での実施のためのガイドブック」について

このガイドブックは、大学生等へのVRTの適用に関する信頼性の検証をしたうえで、実施や解釈上の留意点をまとめたものである。現在のVRTの手引の補足資料として作成した。信頼性の検証には、大学、短大、専門学校生4898名分のVRTのデータを用いた。

職業興味、職務遂行の自信度、日常生活の基礎的志向性の各尺度の平均値を、学校別、男女別に算出した結果、大学、短大、専門学校生の男女ともに、高校生と比較して全体的に得点は高めとなり、特に大学生が最も高い（図1、図2）。そのため、大学生等にVRTを実施し、高校生の換算基準で結果の

プロフィールを描いた場合には、プロフィール全体がやや高め（右寄り）になっている可能性を理解しておく必要がある。

他方、VRTでは、「結果の見方・生かし方」というワークシートにおいて、職業興味、職務遂行の自信度、日常生活の基礎的志向性に関してプロフィールを作成し、その上位領域を使って、解釈や職業との照合等を行う。そこで、大学生のデータで大学生用の仮の換算基準を作り、個人の粗点を大学生の仮換算基準と高校生の換算基準の両方で換算し、上位領域の一致度を調べた。両方の基準で作成したときのプロフィールの上位領域が一致すれば、個人レベルの結果の解釈を誤る可能性は低いと考えられるためである。

検討の結果、職業興味と職務遂行の自信度に関して、高校生の換算基準を用いて得られた1位の領域は、大学生の仮換算基準を用いても1位となる割合が高く、二つの換算基準で大きく異なる結果が得られる可能性は低いことが確認された。

また、基礎的志向性については、対人（P）、対物（T）に比べて対情報（D）志向が大学生で高校生よりも高めであるため、三つの中では対情報志向が1位となる割合が高くなった。ただ、ワークシートでの職業との照合では、例えばD志向が1位だった場合、Dを含むすべての組合せ（D、DT、DP）から職業を調べるため、特に大きな問題はないという結論に至った。

■「大学生等のための職業リスト」について

VRTでは「結果の見方・生かし方」のWORK3を使って、受検者の興味や自信、基礎的志向性に合致した具体的な職業名をIoanandのRIASECの6領域や、基礎的志向性のDPT別に調べる事ができる。ただ、現在のWORK3に掲載されている職業名は、中学生、高校生でもよく知っているようなものが多いため、大学生等、専門的な分野で学ぶ学生にはやや物足りないリストであることも否めない。

そこで、現在のVRTのワークシートに掲載されている職業名のほかに、大学生等の利用を意識して、RIASECの領域ごとに職業名を追加したものが「大学生等のための職業リスト」である。追加する職業名の選択にあたっては、一般の職業情報のデータベースに掲載されているような職業名や職務内容で、WEBの職業情報データベースから検索できるような職業名をできるだけ入れるように配慮した。職業リストはRIASECのほか、DPT別にも整理されており、いろいろな検索ができるようになっていく。

■VRTの大学生等への活用に向けて

VRTは、中学生でも理解できる内容であることを意識して開発された検査であるので、質問項目となっている職務内容の記述がわかりやすく、仕事

の内容をイメージしやすい。実際に大学生に実施してみると、答えやすかったという感想も多く、自己イメージとの一致についてもよい反応が返ってくる。

また、学科別に興味や自信を分析してみると、専門分野の特徴に関連する

RIASECの領域の平均値が高くなっており、当然のことかもしれないが、個人の興味、自信と選択される専門分野には関連があるという事実を改めて確認する思いである。

今回、「ガイドブック」に記載した通り、VRTを大学、短大、専門学校で実施するための信頼性は確認されたので、今後は、実施上の留意点などを理解していただいたうえで、大学生等の進路や職業選択の支援のためのツールの一つとしてVRTを活用していただければ幸いである。

図1 学校別の各尺度の平均値 (男子)

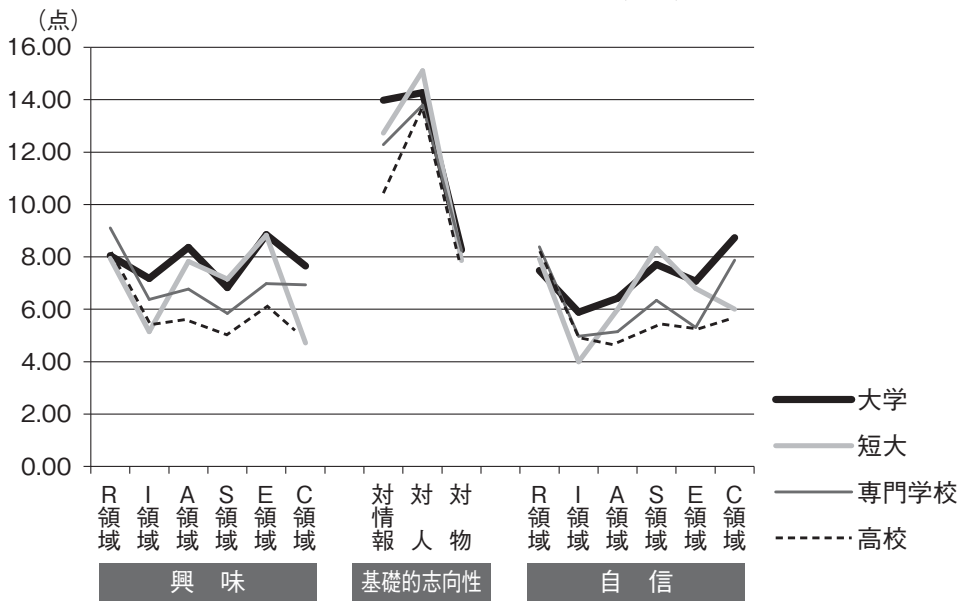


図2 学校別の各尺度の平均値 (女子)

